

おくすり Q&A 新しい片頭痛の治療薬について、教えてください。

2025 年 12 月に販売開始されたナルティーク®OD 錠（一般名：リメゲパント）という薬で、「急性期治療（痛い時に止める）」と「発症抑制（予防）」の両方に使える、日本で初めての飲み薬です。

Q. どんな特徴がありますか？

A. 「**経口 CGRP 受容体拮抗薬**」と呼ばれる新しいタイプの薬です。頭痛が起きるときに体内で増える **CGRP（カルシトニン遺伝子関連ペプチド）** という物質の働きをブロックし、痛みの発生そのものを抑えます。これまで同じ仕組みの薬は注射（皮下注射）しかなく、予防にしか使えませんでした。また、注射が苦手な方にはハードルが高かったのですが、この薬は水なしでラムネのように溶ける **OD 錠（口腔内崩壊錠）** なので、外出先でもサッと飲めて非常に便利です。

Q. 従来の薬と何が違うのですか？

A. 主に「使える人」と「飲みすぎによる頭痛のリスク」が違います。

①**血管への影響が少ない**：従来の代表的な薬（トリプタン系）は、拡張した脳の血管をギュッと縮めて痛みを和らげます。そのため、狭心症や心筋梗塞、脳卒中などを経験したことがある方は、血管が詰まる恐れがあり使えませんでした。リメゲパントは血管を収縮させないため、これまでトリプタン系が使えなかった方も服用できます。

②**「薬の飲みすぎによる頭痛」が起きにくい**：トリプタン系を月に 10 日以上飲み続けると、脳が痛みに敏感になり、かえって頭痛が増える「薬物乱用頭痛（薬剤の使用過多による頭痛）」のリスクがありました。リメゲパントには、長期間使ってもこのような頭痛が起きたという報告は今のところありません。

Q. 使い方は？

A. ●急性期治療（発作時）の場合

痛みが出たら、出来るだけ早く **1 回 75mg** を経口投与。

●発症抑制（予防）の場合

1 回 75mg を **1 日おき** に経口投与。

（※ 1 日最大 75mg まで。リメゲパントを既に服用している日に発作が起きた場合は、トリプタン系などその他の治療薬を服用する）

日本国内の調査（OVERCOME 研究など）では、片頭痛患者さんの約 74% が発作のたびに「寝込む」、あるいは「生活に支障が出る」と感じています。また、「いつ頭痛が起きるか分からないから旅行の約束ができない」という不安を抱えている方も 3 割近くにのぼります。新薬のため、ジェネリック医薬品がある従来の薬に比べると薬代（薬価）は高くなりますが、「痛みの恐怖」から解放され、自分らしい生活を取り戻すための心強い味方になってくれるはずです。頭痛にお悩みの方は、ぜひ一度医療機関で相談してみてください。



担当薬剤師 相川 紗綾香

わたしの 健康とくすり

第365号



今月の内容

・疾患シリーズ

梅毒について

～早期発見と治療が大切な感染症～

・ちょっとお耳を……

お口の乾き 気になっていませんか？

・おくすり Q & A

新しい片頭痛の治療薬について、教えてください。

2026 年 6 月発行

発行者 八王子薬剤センター 橘 隆二

東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

疾患シリーズ

梅毒について～早期発見と治療が大切な感染症～

梅毒は「梅毒トレポネーマ」という細菌によっておこる性感染症です。近年、日本でも患者数が増加傾向にあります。2022年以降は年間10,000例を超える報告がされており、注意が必要な状況となっています。性行為によって感染するイメージが強いですが、実際にはオーラルセックスやキスでも感染する可能性があるため、だれにとっても身近な感染症といえます。また、妊娠中の母親から胎児に感染する「先天性梅毒」も問題となっています。



梅毒の症状とその進行について

梅毒は大きく4つの時期に分かれます。

〈第1期〉（感染後数週間後）

感染した部位に、痛みのないしこりや潰瘍（硬性下疳）ができます。性器だけでなく、口の中や唇にできることもあります。痛みがないため気づかず放置されることが多いのが特徴です。

〈第2期〉（感染後数ヶ月）

全身に赤い発疹が出たり、リンパ節が腫れたりします。手のひらや足の裏に発疹が出ることもあります。発熱や倦怠感など、風邪のような症状が出る場合もあります。これらの症状は自然に消えることがありますが、治ったわけではありません。

〈潜伏期〉

症状がなくなり、一見健康に見えますが、体内では細菌が生き続けています。

〈第3期以降〉（数年～数十年後）

放置すると、心臓・血管・神経などに重い障害を引き起こすことがあります。現在は早期治療が一般的なため、ここまで進行するケースは多くありませんが、放置の危険性は知っておく必要があります。

梅毒の検査方法と治療について

梅毒は血液検査で簡単に診断できます。

治療はペニシリン系抗生物質の注射または内服が基本で、適切に治療すれば治癒が期待できます。治療中はパートナーへの感染を防ぐため、性行為を控えることが大切です。



予防と早期受診のすすめ

コンドームの使用は感染リスクを下げますが、完全に防げるわけではありません。気になる症状がある場合は早めに医療機関を受診することが大切です。梅毒は早期発見・早期治療でしっかり治る感染症です。少しでも不安があれば、遠慮せず医療機関に相談しましょう。



執筆薬剤師 原島 悠輔

ちょっとお耳を……

お口の乾き 気になっていませんか？

唾液の分泌量が減って口の中が乾く状態のことを「ドライマウス」といいます。この状態が続くと、食事や会話がしにくくなったり、口臭が気になったり、むし歯や歯周病のリスクが高まったりすることがあります。放置するとオーラルフレイル（口の機能低下）につながり、飲み込みにくさや誤嚥性肺炎のリスクも上がります。ドライマウスの原因は、疾患によるもの・加齢によるもの・お薬の副作用によるもの・生活習慣によるものなど多岐にわたります。原因にもよりますが、セルフケアがとても有効な場合があります。そこで、今日からできるセルフケア方法をいくつかご紹介します。

お口の乾き「ドライマウス」を防ぐセルフケア方法

【唾液を分泌させる工夫】

- ・よく噛んで食べる：食事の際、ひと口につき30回（少なくとも20回）噛むようにしましょう。噛む刺激が唾液腺を活性化させます。
- ・ガムを噛む：キシリトール配合や糖分控えめのものを選ぶとよいです。
- ・噛みごたえのある食材を選ぶ：スルメやナッツ類を間食に取り入れましょう。
- ・保湿アイテムを使う：乾きがひどい時は、市販の口腔用ジェルやスプレーを活用してみるとよいです。
- ・唾液腺マッサージ：耳の下（耳下腺）や顎の下（顎下腺）を指先で優しく円を描くようにゆっくり5～10回揉みほぐしましょう。



【生活習慣の改善ポイント】

- ・こまめな水分補給：一度に多く飲まず、少量ずつ回数を分けて飲みましょう。
- ・アルコールやカフェインを控える：利尿作用があるため、体内の水分を減らし、口の乾燥を招くことがあります。
- ・タバコを控える：タバコに含まれるニコチンは唾液の分泌量を減少させることがあります。
- ・鼻呼吸を心がける：口呼吸が続くと唾液が蒸発しやすい状態となってしまいます。鼻呼吸を習慣化しましょう。

口の乾きを放置することで、唾液腺の機能は少しずつ低下し、唾液量はどんどん減っていきます。症状が出た場合は、早めに対処することが大切です。自分のできるケアからはじめてみましょう。また症状の気になる場合は歯科へ相談してください。いつまでも健康でいるためにも、口の潤いを守りましょう！

執筆薬剤師 中島 千春